



第 61 回 日本臨床化学学会年次学術集会

The 61st Annual Meeting of the Japanese Society of Clinical Chemistry

なぜ**亜鉛**は健康に必要なのか？：

ヒト疾患とモデルマウスから究明する亜鉛の重要性

日時

2021年 11月 5日 (金)

17:00 ~ 18:00

会場

第2会場 (福岡国際会議場 5F 会議室 502+503)

座長

小川 正浩 先生

福岡大学医学部 臨床検査医学講座 主任教授

演者

深田 俊幸 先生

徳島文理大学薬学部 先端医療薬学コース
病態分子薬理学 教授

共 催

第61回日本臨床化学学会年次学術集会

株式会社 シンテスト

なぜ**亜鉛**は健康に必要なのか？：

ヒト疾患とモデルマウスから究明する亜鉛の重要性

深田 俊幸 先生

徳島文理大学薬学部 先端医療薬学コース
病態分子薬理学 教授

亜鉛は鉄に次いで多い必須微量元素であり、その欠乏は、初期発生、免疫系や内分泌系等の機能、皮膚、骨・軟骨、骨格筋等の形成に様々な異常をもたらす。亜鉛恒常性の異常が免疫不全、糖尿病、アルツハイマー型認知症等の様々な疾患に関わること、加齢によって生体内亜鉛量が低下することが報告され、亜鉛の健康と病気における関連に注目が集まっている。ヒトの約1割の遺伝子が亜鉛結合ドメインをコードすること、トランスポーターによって制御される亜鉛が情報を伝えるシグナル因子（亜鉛シグナル）として機能することが判明し、細胞機能における亜鉛の多様な役割が明らかにされつつある。本講演では、「亜鉛がなぜ生命維持に必要なのか」について、主に免疫系・皮膚器官系・がんに焦点を当てて紹介する。さらに、国際亜鉛生物学会と日本亜鉛栄養治療研究会等の内外の関連学会の活動内容も交えて、亜鉛シグナルを制御する創薬研究や、モデルマウスを用いた関連疾患に対する再生医療研究等について議論する。